Point

ＪＲ東海労　大阪修繕車両所分会分会情報

Ｎｏ．１４９　　２０１１．１２．０１．

発行責任者　　坂東　貞男

編集責任者　　教　宣　部

原発問題を考えよう！

危険なプルサーマルは即刻やめるべき！！ その５

１０月２５日の朝日新聞夕刊で、国の原子力委員会は、原発のすべての使用済み核燃料からプルトニウムを取り出し、再利用する現行の『再処理』のコストは、再利用せず地中に埋める『直接処分』のコストの２倍になると言う試算を発表しています。

核燃「再処理」コスト2倍

原子力委試算 埋設より割高

■核燃料サイクルのコスト比較
（1キロワット時当たり）

処理法	今回の試算	2004年の試算
全量再処理	1.98円	
半分再処理、半分中間貯蔵	1.39円	1.47円
全量直接処分	1.00～1.02円	0.9～1.0円

（金利３％で試算）

国の原子力委員会は25日、原発のすべての使用済み核燃料からプルトニウムを取り出し再利用する現行の「再処理」のコストは、再利用せずに地中に埋める「直接処分」のコストの2倍になるという試算を発表した。7月に原発の依存度を減らす方針を示した政府のエネルギー・環境会議に報告する。同会議は来夏をめどに政権のエネルギー戦略の基本方針「革新的エネルギー・環境戦略」をまとめる際の判断材料にする。

東京電力福島第一原発事故が起きるまで、国内の原発54基からは毎年約1千トンの使用済み核燃料が出ていた。これを①全て再処理する②半分を再処理し、半分は約50年間、施設で保管する（中間貯蔵）③発電から54年後にすべて直接処分、という三つのシナリオについて試算した。

金利3％の場合、①は再処理などの費用がかかり、1キロワット時あたり1・98円になった。②は一時的に燃料を保管しておく費用がかかり1・39円。③は使用済み核燃料を地中に坑道を掘って埋める費用がかかり、1・00～1・02円になった。

再処理は電力事業者の責任で実施している。電力業界が青森県六ケ所村で再処理工場の完成を目指している。再処理や直接処分の費用は電気料金に影響する。

政府は再処理を中心にした「核燃料サイクル」政策を一貫してとってきたが、青森県の再処理工場は試運転中に技術的なトラブルで止まっている。稼働したとしても最大年間800トンで、年間1千トンすべてを処理できない。このため、将来はさらに再処理施設を増やし、全量を再処理できる体制の検討が迫られることになる。

現在は、各原発の燃料プールで保管しているほか、英仏で再処理してもらい、原発で燃やすプルサーマル発電に使っている。

7年前の原子力委の試算でも全量再処理より直接処分は割安という結果だった。しかし、すでに青森県の再処理工場を建設している段階で、再処理をやめることで、これまでの建設費や技術開発への投資などの費用が無駄になるなどとして、核燃料サイクルが維持された。

原子力委は、国の委員会が公表した今回の事故処理にかかる費用を踏まえ、今後原発事故が起きた場合のコストについても初めて試算。原発1基で事故が起きた場合の費用を計約3兆8878億円とした。ただし、現時点では政府の福島事故での除染計画の規模もわからず、正確な見積もりではないという。（小堀龍之）

さらに、電力業界が青森県六ケ所村で、再処理工場の完成を目指しているが、試運転中の技術的なトラブルで止まっていることや仮に計画取りに稼働したとしても、年間最大８００トンしか再処理できず、毎年１０００トン排出される使用済み燃料を処理できないことから、将来は、再処理施設を増やし、全量を再処理できる体制の検討が迫られることになるとしています。

使用済み核燃料は、現在、各原発の燃料プールで保管しているほか、英仏で再処理してもらい、プルサーマル発電に使用していますが、今後も全国の原発で出る使用済み核燃料を再処理するのにも、処分するにもお金がかかることは明らかです。

これまで、分会情報「Ｐｏｉｎｔ」で明らかにしてきた通り、プルサーマル発電は、大変危険で、尚且つ、経済的に無駄なものです。したがって、核燃料サイクルをやめ、危険なプルサーマルは即刻やめるべきです。

←（１０月２５日の朝日新聞夕刊）

明日の日本のためにも原発問題を考え、行動しましょう！